



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2019年(令和元年)5月25日号 No.1793

目次

■ 2019年1～3月のロシア経済 —成長が再び減速—	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2019年6月号のご紹介	3
■ エトセトラ	4
セミナー「ベラルーシ投資の魅力とグレートストーン工業団地」/4	
■ トピックス	4
日ロが北方領土での共同経済活動を協議/4	

2019年1～3月のロシア経済 —成長が再び減速—

はじめに

2019年第1四半期(1～3月期)のロシアの主要経済指標が出揃ったので、ロシア連邦国家統計局による発表データを表にまとめてお届けする。

統計局が5月17日に発表した暫定推計値によると、2019年1～3月のロシアの国内総生産(GDP)は、前年同期比で実質0.5%成長した。2018年の成長率2.3%から、大幅に減速したことになる。

しかも、ロシア政府および主要機関は、2019年のロシアの成長率をおおむね1%台と予測していたので、1～3月の時点ではそれらの予測を下回っていることになる。また、4月にロシア経済発展省が発表した推計では、2019年1～3月のGDPは前年同期比0.8%増とされていた経緯があり、今回の0.5%という数字はそれをも下回る事となった。

経済発展省によれば、経済減速の主たる要因は、商品小売りおよび消費者向けサービスの低下であり、年初からの付加価値税の引き上げが響いているという。

図表1で2019年1～3月の主要経済指標を見ると、やはり実質可処分所得のマイナス2.3%という数字が重くのしかかっており、これが低調な個人消費に繋がっているものと考えられる。また、おそらくは油価の問題に起因して、輸出の伸びに急ブレーキがかかっており、ルーブル安を受け輸入はマイナスに転じている。

図表2では、鉱工業生産の動向を整理している。産業高度化、輸入代替、非原料輸出増を目指す政権の思惑に反し、2018～2019年に伸びているのは鉱業であり、製造業は低成長に甘んじている。なお、2019年1～3月の原油(ガスコンデンセートを含む)生産は1億3,900万t(前年同期比3.4%増)、天然ガス生産は1,760億m³(3.9%増)、石炭生産は1億800万t(1.3%増)であった。